平成１５年度地域連携支援ソフト事業
「吉野熊野の魅力」地域連携ＰＲ事業
報　告　書

吉野熊野地域振興協議会

目　　次

Ⅰ　フォーラム「吉野熊野の魅力を探る」
１．開催概要　……　２
２．開会・開会挨拶　……　３
３．基調講演　……　６
４．パネルディスカッション　……１０
５．アンケート結果　……２７

Ⅱ　情報ＰＲ展　……５３

Ⅲ　吉野熊野フォトコンテスト　……５３

Ⅳ　まとめ　……５４

Ⅴ　関係資料
１．新聞掲載　……５５
２．開催風景　……５７

Ⅰ　フォーラム「吉野熊野の魅力を探る」

１．開催概要

■日　時　　平成１５年１０月２６日（日）１３時３０分～１６時１５分
■場　所　　近鉄劇場

■プログラム

１３：２５～　開会／主催者あいさつ
国土交通省国土計画局特別調整課長　中山　厚
吉野熊野地域振興協議会長　　松岡　直彦

１３：３０～　基調講演
テーマ　「吉野熊野を訪ねて」
浜　　美枝（女優）

１４：２５～　矢吹紫帆ライブ演奏

１５：００～　パネルディスカッション
テーマ　「吉野熊野地域の魅力」
コーディネーター　小山　靖憲（帝塚山大学教授）
パネリスト　　浜　　美枝（女優）
矢吹　紫帆（シンセサイザー奏者）
西嶋　久美子（新宮料理学院副学院長）
小島　誠孝（写真家）

お楽しみ抽選会

１６：１５　　閉会

２．参加者

約８００人

２．開会・開会挨拶

MC
皆様こんにちは。
本日はフォーラム「吉野熊野の魅力を探る」にご来場いただきまして誠にありがとうございます。吉野熊野は「三重県・奈良県・和歌山県」の３県に接し、森林・清流などの豊かな自然に恵まれ、その歴史・文化とともに、「癒しの地」として様々な魅力にあふれています。
また、吉野・大峯、熊野三山、高野山の各霊場とそれらを結ぶ参詣道は、「紀伊山地の霊場と参詣道」として平成１５年１月に世界遺産としてユネスコに推薦され、平成１６年の登録を目指しております「吉野熊野」を、本日はあらためて皆様にご紹介させていただきます。
吉野熊野の魅力に触れ、一人でも多くの方々にお越しいただき、素晴らしい環境を体感していただければと存じます。
本日の第一部では、皆様には、テレビでもお馴染みの女優「浜美枝」さんをお招きして「吉野熊野を訪ねて」をテーマに、旅での経験をお話いただきます。
そして、第二部の前半には熊野市在住の「矢吹紫帆」さんによりますシンセサイザーの演奏をお聞きいただき、引き続き「吉野熊野地域の魅力」をテーマにしたパネルディスカッションをお送りいたします。
また、プログラム終了後には、本日ご来場の全ての皆様に吉野熊野の伝統食であります「柿の葉ずし、めはりずし、さんまずし」のセットを、そして「地域の特産品セット」が当たる抽選会もご用意いたしておりますのでどうぞお楽しみになさってください。
なお、抽選は招待ハガキに記載されております番号で行いますので、無くさないようにご注意ください。
そしてここで皆様にご協力のお願いです。携帯電話をお持ちの方は電源を切っていただくか、マナーモードに設定していただきますようお願いいたします。
また会場内での記念撮影はご遠慮いただいております。どうぞご了承ください。
それではどうぞ最後まで、ごゆっくりお楽しみくださいませ。
それではここで開催にあたりまして、主催者であります、国土交通省国土計画局特別調整課長「中山厚」より、ごあいさつをさせていただきます。
中山課長、よろしくお願いいたします。

国土交通省国土計画局特別調整課長　中山　　厚
ただ今ご紹介に預かりました国土交通省国土計画局特別調整課の中山でございます。肩書きは長いのですが、挨拶のほうは手短にするつもりでございます。本日は「吉野熊野の魅力を探る」フォーラムを開催するにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。ま

ず、はじめに秋の行楽シーズン真っ最中にこのように多くの方々にご参加いただきましたことを主催者代表いたしまして、皆様方に厚く御礼申し上げます。
吉野熊野地域は皆様すでにご承知のとおり、紀伊半島の三重・奈良・和歌山の三県境に接する地域でございまして、交通アクセスも悪く、過疎化、高齢化に直面しているいわゆる中山間地と言われる地域であります。その一方では吉野熊野国立公園に代表される、多くの自然とともに修験者たちの修行場、それから熊野三山参詣のための熊野古道といった歴史的にも非常に貴重な文化遺産が存在し、近年は丸山千枚田の復元、NHKの朝の連続ドラマ小説「ほんまもん」の舞台となるなど脚光をあびつつある地域でもあります。吉野古道等の文化遺産については、ご承知かと思いますけれども、平成１６年のユネスコの世界遺産登録に向けた取り組みが進められており、こうした中でこれまで以上に吉野熊野地域の魅力について情報を発信し、観光交流の促進が期待されているところであります。こうした中で今回のフォーラムを通しまして、まずは吉野熊野地域の素晴らしさを広く京阪神の方々に知っていただき、愛着を持っていただきたいと思っております。さらに観光による人的交流から踏み込んで、将来的なUターン・Ｊターン・Ｉターンといった定住につながれば幸いかと存じます。またこの地域の自然・歴史の素晴らしさを都市・地元の人間が共有することによりまして、自然環境、歴史文化遺産を協力して守っていくということがわが国の国土の保全にとって重要であります。政府におきましては、「住んで良し・訪ねて良し」の国づくりとして観光立国をスローガンにしております。このため国土交通省が中心となりまして、観光立国行動計画を策定いたしましてビジットジャパンキャンペーンを始めとする諸施策の実施に取り組んでいるところであります。また２１世紀の国土のグラウンドデザインにおいては参加と連携これによる地域づくりを推進することによりまして、質の高い、自立的な地域社会を形成することを目指しておりまして、本日のフォーラムもその一環として行うものであります。皆様からの忌憚のない活発なご議論、それから積極的な参加により本フォーラムを実り多いものとしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。最後に本日のフォーラムの開催に当たりまして、格別のご協力をいただきました関係者の方々に深く感謝の意を表しまして私の挨拶といたします。本日は皆様ご参加いただきまして誠にありがとうございます。

MC
ありがとうございました。
続きまして『吉野熊野地域振興協議会　会長「松岡直彦」』よりご挨拶をさせていただきます。松岡会長よろしくお願いいたします。

吉野熊野地域振興協議会会長　松岡　直彦
みなさん、こんにちは。ただ今ご紹介いただきました吉野熊野地域振興協議会会長　三

重県紀南研究局　松岡直彦でございます。みなさまにはこの秋晴れの絶好の行楽日和の中、ご来場いただきまして誠にありがとうございます。
吉野熊野地域振興協議会につきましては、紀伊半島の三県、三重県・奈良県・和歌山県の地域におきまして、協同で地域の振興事業をやろうとそういった中で地域の活性化を図っていこうという目的で平成９年に設立したものでございます。協議会設立以来、この地域におきまして、写真展、講演会を吉野熊野をテーマとして開催してまいりましたし、また地域の食をテーマといたしまして、フォーラムの開催など公益的な取り組みを展開してまいりました。
本日の催しは、国土交通省と共催で吉野熊野の魅力を京阪神の皆様に十分ご紹介したいという目的で開催いたしました。吉野熊野地域につきましては歴史・文化あるいは自然環境、共通のものを有しております。またその地理的背景から、独特の文化を生み出してまいりました地域でございます。この地域につきましては、吉野・大峯・熊野三山・高野山こういった各霊場とその参詣道につきまして「紀伊山地の霊場と参詣道」ということで本年１月に世界遺産としてユネスコに推薦され、来年平成１６年の登録を目指しているところでございます。本日のこういった催しによりまして、吉野熊野の魅力を皆さん方に十分ご紹介させていただき、一番大切なことは皆様方に吉野熊野地域に来ていただいて、地域の魅力をじかに身体で感じていただく、また地域にじかに触れていただいて自分なりの魅力を探していただくということを心から祈念いたしまして、簡単ではありますが開会のご挨拶に変えさせていただきます。ぜひとも紀伊半島、吉野熊野に来ていただけるようよろしくお願いいたします。

３．第１部　講演　「吉野熊野を訪ねて」
テーマ：「吉野熊野を訪ねて」
出　演：浜美枝（女優）

皆様、こんにちは。浜美枝でございます。
本当に今日は素晴らしい秋晴れの中、ようこそ大勢の方がお越しいただき、ありがとうございます。今日は、「吉野熊野の魅力を探る」というテーマでのフォーラムにお招きいただきました。私はこれまで約４０年間にわたって、日本全国を旅してまいりました。女優、農政ジャーナリストなど色々な方面でお仕事をさせていただいているのですが、「あなたの職業は何ですか？」と聞かれたら、「旅人です。」と答えるのが最もしっくりくるほど私の暮らしは旅と密接につながっております。吉野熊野にもこれまで２度お邪魔いたしたことがございます。１度目は１０年くらい前になりますでしょうか。那智の方から。そして２度目は３年前に新宮町から熊野古道を歩く会のメンバーの方たちとご同行いただいて、わずかですが熊野古道を歩かせていただきました。熊野古道以外にも、古道といいますか、霊場を結ぶ道というものが全国にいろいろございます。そうした道のいくつかも私はこれまで歩かせていただいたことがあります。けれども、その一つ一つの歴史や風土が異なるように、道を歩く味わいもそれぞれ違いがあるんです。
熊野古道を歩いたときに感じたのは、なんともいえない「穏やかさ」。そんな感じでした。そして包み込まれるような「暖かさ」でした。海の風がときおりふわ～っと頬をなでていきました。生い茂る木々の葉の間から差し込む光は、歩く私の背中をそっと後押ししてくれるかのようでございました。北国にあります霊場を結ぶ古い道などを歩きますと、その気候の故もあるのでしょうが、厳しさといいましょうか、表情が思わず引き締まるようなそんな感じになるんです。でも、熊野古道はそれとはちょっと違うなと思います。もっともっと穏やかで優しいものが感じられるんです。もちろん平安時代あるいは江戸時代に、熊野古道を旅するというのは、今電車に乗ってうかがう私たちには想像もつかないような大変さがあっただろうと思います。「蟻の熊野詣」という言葉が残っているように、紀伊半島には峻険なところも多く、そしてさらには雨も多く、峠越えは困難を極めたと聞いております。巡礼の装束に身をあらため、苦行の道へと旅立っていった人々もきっと多かったのではないでしょうか。けれども熊野古道を一歩一歩あゆみを進めながら、私は穏やかな自然の中で自分を解放していくような感じを強く受けました。なにか解放されていくんです。一歩一歩あゆむと・・・。ただ無心に歩くだけで、心と身体が浄化されるといいましょうか、そんな感じがいたしました。これは本物の「癒しの地」へ向かう道だ、とそのとき深い感動を覚えました。
今回、吉野熊野が「紀伊山地の霊場と参詣道」としてユネスコに世界遺産として推薦された事を知りまして、私もこの吉野熊野のことを少しばかり調べてみました。本当にその歴史というのは深く、平安時代にまでさかのぼるということです。また東紀州は、古

事記や日本書紀の数々の神話の舞台として登場して参りました。たとえば熊野市に今も存在する「花の窟」。「花の窟」は日本書紀にイザナミノミコトの墓として登場しております。高さが７０メートルもある岩そのものがご神体なんです。わたしも感激しました。今も２月２日と１０月２日には日本一といわれる巨大な花で飾ったしめ縄を引く「お綱かけ神事」が行われるそうです。豊かな自然を神とあがめる原始信仰は、日本人の誰もが心の奥底にもっているものだと思います。確かにあの「花の窟」の前にたたずんだときに、神秘的な思い、そして自然に対する畏敬の念がわきあがったことを今もしっかりと覚えております。と同時にこの岩にしめる縄を飾る人々の祈りの強さと、今に続く伝統を脈々と人から人へと時代を超えて伝えてきたという思いにも胸を打たれました。科学は発達し、社会は発展していっても古代人がそうであったように、現代の私たちも厳粛な気持ちになる。それを大切に思い、伝えてくれた人々がいる。なんと素晴らしいことでしょうか。平安時代から江戸時代にかけて、「伊勢へ七度、熊野へ三度、愛宕山（あたごやま）には月参り。」とうたわれたほど多くの人が熊野を目指しました。熊野を目指す主なルートは、紀伊半島を西回りする紀伊路と、東回りをする伊勢路＝東熊野街道の二つがありますが、この紀伊路はご存知のように平安中期から鎌倉期にかけ、さかんに行われた皇族の業行ルートであり、また伊勢路のほうは江戸時代以降、さかんに歩かれるようになった道だと言われております。お伊勢参りを終えた旅人の多くが、熊野詣にと、あるいは西国三十三ヶ所を巡りとたどった、いわば「庶民の道」そして熊野古道、これらすべてがいにしえの人々の「祈りの道」だったと私は思います。
さらに吉野熊野の魅力はこうした歴史と自然の素晴らしさだけではなく、開発の手が必要以上に入っていないということもあげられるのではないでしょうか。現在熊野古道も国道や県道に整備され、大きく姿を変えました。けれども一部には、難所ゆえに開発の波から逃れ、往時のそのままの美しい石畳や景観を残すところも数多くあります。深い本当に深い緑、清らかなせせらぎ、路傍に佇む史跡や石仏、苔むした石畳、生い茂る杉の木立、だからこそ人々を熊野古道はひきつけるのではないでしょうか。
私も後世までこの熊野古道をなんとかこのままの形で残しておきたいと望む一人です。世界遺産に登録されるということはもちろん名誉なことではございますが、私はむしろこのように思います。吉野熊野の素晴らしさを多くの人に知っていただき、そのことによって熊野古道を今の形で残す為のひとつの選択肢として、世界遺産登録としての道があるのではないか。ということです。世界遺産に登録されるのは確かに素晴らしいことですが、同時にそのことによって生ずる難しさもあります。難しさについても、今から考えていかなくてはならないのではないかと思います。
先日、北海道の知床が世界自然遺産の推薦地に選ばれました。皆様もご承知のことと存じます。けれども、彼の地の友人から届いたのは「実は今、漁業と動物保護の調整やそれから宿泊客の収容能力の問題、自然保護的見地からの危惧など様々な問題が持ち上がっている。」という手紙でした。たとえば世界遺産の候補地になったとたんに、奥地に

入る人が急増します。ビデオカメラを片手にヒグマに近づき、さらにはあろうことかエサを与える人まで出てきてしまったということなんです。こうしたことから、ヒグマが人が食べるものを持っていることを知ってしまい、人を襲う危険まで出てきたといいます。今までヒグマと共生を図ってきた林業や漁業の従事者は、特にその共生関係が壊れることを心配しておられるそうです。奥地での空き缶のポイ捨てなども問題になっているといいます。
また、私は今年の初めですが、世界文化遺産に登録されたベトナムのアロン湾を訪ねたのですが、到着したとたん目の前に広がる光景、風景に本当に唖然としました。アロン湾の船着場の手前が駐車場になっています。バスが 100 台くらい並んでいました。バスが到着すると、そこから人がわぁっと吐き出される。一定の時間が過ぎると人がバスにぞろぞろと集まってきて乗り込む。バスが発車する。この風景が絶えることなく繰り返されていきます。ハノイから１５６キロ北東に位置したこのアロン湾は世界遺産に登録された湾ですから、本来非常にすばらしい景観で知られたところです。私も一度は行きたいと思った場所でした。多くの絵画的な島があり、そこには大きな岩屋もあります。ゆっくり静かに眺めたい場所でもありました。けれども今回それは望むべくもなく、逆に人に酔ってしまうような状況でした。湾にたくさんの船が出て、あの美しい島々をゆっくり見ることができなかったのです。世界文化遺産として登録されたとたんにこんな状況になってしまったのだと通訳の人に聞かされ、私はしばらくの間言葉を発する事ができませんでした。実際他にも観光客受けする形だけが残り、本当の意味での伝統の心が失われていきつつある世界遺産に登録された地域は少なくありません。結局、世界遺産に登録されても、人々の理解や協力がなければなにも守れないということなのだと思います。建物でも文化財でも自然でもなく、古道つまりいにしえからの参詣道を含めて、吉野熊野が世界遺産の候補地になったということは、現在の吉野熊野の空気というか目に見えない神秘的なものや人から人へと伝えられてきた思いや祈りまで含めて、残す価値があるものとして認められたということだと私は思います。
そのことの意味を是非今から皆様にも考えていただきたいなぁと思います。吉野熊野から何を発信していくのでしょうか。どの角度から吉野熊野を訴えていったらいいのでしょうか。世界遺産に指定されるという事は、どういうことなんでしょうか。今日お一人お一人が吉野熊野にあつい思いをお持ちの方がお見えくださったと思います。熊野古道が癒しの地へゆっくりと歩む道であるというその原点を忘れることなく、１００年後２００年後にも人類の遺産として大切にされるように、いまこそ私たちは知恵を出し合わなければいけない。そんな気がいたします。世界遺産に登録されるという事は本当に素晴らしいことです。でも、ユネスコの世界遺産に登録されたところをずいぶん訪れましたが、さきほどもうしあげたような事態が起こりうるのではなく、起こってしまっています。近年いろいろ都市から見ると地方分権とか過疎とか色々な事が言われておりますが、この美しい吉野熊野をそういうことでかたずけるのではなく、穏やかにゆっくりと

私たちの心の遺産として財産として、後世に残す為に私たち一人一人が考えていっていただきたいと思います。
あとにフォーラムがございます。それぞれのお立場で歴史的背景ですとか、食文化から見る吉野熊野、それからそこにＩターンなさった方、様々な方とシンポジウム、ディスカッションがあります。会場の方とともに吉野熊野の魅力を探ると同時に、登録された後どのように私たちは保全をしていったらいいのかということも考えていきたいと思います。
４０年の間に私は約１２００の市町村を旅してまいりました。古道もたくさん歩かせていただきました。どこも日本列島というのは本当にどこも美しい国でございます。この秋から晩秋、初冬にかけてというのは、本当に抱きしめたくなるような美しい景色・景観があります。日本人の心そのものだと思います。その心そのもののような日本の暮らし、美といったものを私たちが決して破壊する事のないように、後世に美しい形で手渡していきたいと思います。それが胸をはって誇りに思える日本だと思います。
「吉野熊野の魅力を探る」ということでお話をさせていただきました。後ほどフォーラムシンポジウムのほうで、私も加わって勉強させていただきたいと思います。今日はきっと旅がお好きな方々ばかりがお集まりだと思います。その旅を通して、吉野熊野の魅力を皆様とご一緒に考えてまいりたいと思います。どうもご清聴ありがとうございました。

４．第２部　パネルディスカッション
テーマ：吉野熊野地域の魅力
出　演：コーディネーター　小山靖憲（帝塚山大学人文学部教授）
パネリスト　浜美枝（女優）
矢吹紫帆（シンセサイザー奏者）
西嶋久美子（新宮料理学院副学院長）
小島誠孝（写真家）

MC
それでは本日、パネルディスカッションにご出席いただく方々を簡単ではございますが、ここでご紹介させていただきます。
先ず、コーディネーター「小山靖憲」先生は、和歌山大学の名誉教授で、帝塚山大学人文科学教授、そして「奈良県歴史の道調査委員会委員」としても、ご活躍なさっていらっしゃいます。また、「熊野古道」「中世社寺と荘園制」「中世村落と荘園絵図」などを出版され、吉野熊野地域には非常に関心を持たれ、その歴史を中心にしたお話には私たちにも新しい発見を与えてくださるのではないでしょうか。
そして、パネリストとして、新宮料理学院副学院長の「西嶋久美子」先生、山岳写真家の「小島誠孝」先生にご出席いただき、西嶋先生からは、地域の豊かな食材や歴史と食べ物の関係、受け継がれている料理や西嶋先生ならではの創作料理のご紹介、そして小島先生には吉野熊野の美しい風景や四季折々に変化する山々、プロならではの絶景ポイントのご紹介など、今までにはなかった色々な角度からのお話で吉野熊野の魅力を体感していただきます。
また、ご講演いただいた「浜美枝」さん、そしてシンセサイザー演奏の「矢吹紫帆」さんにもご出席いただき、それぞれのお立場から、吉野熊野の魅力を語っていただきます。
平成１６年の「紀伊山地の霊場と参詣道の世界遺産登録」を目指して、歴史ある風景を世界の方々にも知っていただきたいという思いも皆様にご理解いただけると存じます。
それでは、準備が整ったようです。改めてご出席の皆様をご紹介させていただきましょう。
まず、本日のコーディネーター「小山靖憲」先生です。
先生どうぞ宜しくお願いいたします。
続きまして、熊野地方の郷土料理、特に熊野に自生する雑草から薬の効果のあるものを探し、料理に使う熊野薬膳の研究をされ、新宮市のふるさと産品「除福ロマン」や道の駅のお弁当「吉野熊野物語」を開発された新宮料理学院副学院長「西嶋久美子」先生でございます。西嶋先生、よろしくお願いいたします。
続いては、山岳写真家として奈良県や紀伊半島の山岳地帯をホームグラウンドに日本国内外の風景写真を専門にお撮りになって、NHKの「日本百名山」や近鉄提供の「真珠

の小箱」など多くのテレビ出演でもその素晴らしさを紹介なさっている「小島誠孝」先生です。
小島先生、よろしくお願いいたします。
そして、先ほどシンセサイザーの美しい音色を楽しませていただきました「矢吹紫帆」さんです。矢吹さん、よろしくお願いいたします。
最後は、講演会では「吉野熊野を訪ねて」というテーマでお話いただきました「浜美枝」さんです。浜美枝さん、よろしくお願いいたします。
以上５人の皆様方で「吉野熊野の魅力」をじっくりと楽しく、ご紹介いただきましょう。
それでは小山先生よろしくお願いいたします。

小山
ご紹介いただきました小山でございます。
このパネルディスカッションですけれども、大変短い時間でございますので、うまく進行できますかどうか。出席の皆さんのご協力をお願いしたいと思います。なるべく楽しくやりたいと思いますので、つまらぬ発言がございましたらブーイングしていただいて結構ですし（笑）いい発言には拍手をしていただけるようよろしくお願いいたします。
さきほどの浜さんのご講演もありましたが、浜さんは「私は一旅人」とおっしゃっておられましたが、あと３人のパネラーの方々、および私も含めまして吉野熊野の魅力にはまってしまった人間でございます。皆さんどういったことで、吉野熊野の魅力にはまってしまわれたのかということを最初にご発言いただけますでしょうか？
それでは西嶋先生のほうからお願いいたします。

西嶋
さきほどご紹介いただきました西嶋久美子でございます。新宮で生まれて育って、生活しているものでございます。本業は料理学校をやっておりまして、色々な方と出会いがございます。そのなかで「なれ寿司」「さんま寿司」「茶粥」「柿の葉寿司」など色々な郷土料理と出会い、また郷土の新しいお料理を再発信して行こうではないかという企画がございました。ちょうど日本中がグローバル化されてきてスーパーには外国のお野菜がいっぱい並びだした頃、農薬のかかっていない、そして熊野のふるさとの地で育った昔から民間伝承とされているヨモギやアシタバやジュウヤクなどといった薬の効果のあるものでお膳をつくってみようと思いまして、訪れる旅人のための小さなお膳を作ってみました。地元の人にしましては、当たり前の郷土料理なんですけれども、熊野古道を歩いた後に召し上がっていただきますと、「なにかありがたいような気がする」と、ささやかですけれども作り出して１５年求められ続けてきました。その間、野山に入って自然に触れ合って、熊野の魅力に出会って魅せられていきました。去年は、「吉野熊野物語」という健康長寿食の道の駅で売られるお弁当を創作させていただき、それには徹

底して古典のお料理にこだわってみました。
吉野熊野からの贈り物の大変自然の豊かな食材がたくさんございまして、私は今尚それをずっと追及しつづけていかなければならないと思いますし、次世代にも新しい形や伝統とともに、伝えていかなければと日夜がんばっております。
ぜひ熊野を訪れて、そしてささやかですが熊野の食材を是非味わっていただきたいと思います。

小山
はい。ありがとうございました。
続きまして、写真家の小島先生お願いします。

小島
私の場合は、山岳写真ということになっていますが、もともと登山のほうでございまして、山を登っているうちにだんだん写真のほうに入っていったということでございます。
今お話ありましたように、皆さん何にはまっていったんだろうと、この熊野で何をもってはまっていったんだろうということなんですが、私ははまっていったというか何か自分のほうから入っていったという感じなんですね。「紀伊半島の霊場と参詣道」の中の霊場と参詣道はもちろんのことなのですが、自然景観のほうに私は大変興味がありますので、吉野熊野は、自然景観遺産という意味で見ていきたいという気持ちがあります。
写真のほうを専門に撮っているので、どこかよいワンポイントがないのか？というお話がありましたが、紀伊半島のポイントというのはたくさんございます。ちょっと紹介するには時間が足りないかなというくらいたくさんあります。
私はこの紀伊半島の中でも一番魅力に感じますのは、山であり谷であり、渓谷の水です。それから森林。この３つであると思います。一昨日ですが、私の友人５人とすぐ近くの前鬼のウラギョウバンコ（槃瓠？）へ行ってまいりました。こちらのほうは簡単にいける場所なんですが、みなさんどちらでも林道に入っていただくと、わずか１５分くらいで不動七重の滝という日本百名爆のひとつに入る滝を目の前にすることができます。これもひとつの撮影のポイントではないかと思います。大変きれいな滝です。われわれが行ったときには、水量が多かったので丁度エメラルドグリーンの滝壷に、水煙が上がりまして、そこへ虹がかかるといった情景、こういった情景が簡単に見れるといったことがこの紀伊半島の参詣道のごく一部のポイントでの特長～誰にでも見られる～というところがいいところではないかと思っています。
そんなこともあり、大峯山脈あるいは台高山脈そういったところに足しげく通っているというのが、私の今の生活ということでございます。こういった風景の美しいところで食事をすると大変美味しいと、今西嶋先生のお話にもありましたが、風景が美しければ食事が少々質素なものでも大変美味しくいただけるというようなことがございます。

余談ではありますが、下北山の生成りの湯というところがございます。そこの温泉場でにぎっていただいた「おにぎり」、これがまた大変大きいのです。私は二つくらいしか食べれないのですが、友人では五つ食べた人がおります。大変な大喰らいですね。
そんなふうに美味しくいただけるといった景所が随所にあるというところです。
この紀伊半島を皆さんも是非訪れていただきたいなぁと思っております。
どうもありがとうございました。

小山
ありがとうございました。
開発の手がまだそれほど入っていなくて、いくらでも雄大な自然を楽しめるというのは、浜さんのご講演にもあったわけですが、小島先生はあちこちお歩きになって本当はたくさん紹介したいのだけれども時間がないというようなことでひとつのポイントだけお教えいただきました。
ただ山というのは、天候に左右されまして、写真を撮ろうとしても全く見えないこともございますし、疲れ果てて写真を写す気も起こらないという目に会った事も私はあります。
それでは、先ほどシンセサイザーを演奏していただきました矢吹さん、よろしくお願いいたします。

矢吹
私は、海の見える音楽ホールを作りたいという夢がありまして、それで全国をコンサートしながら、どこかいいところはないかなと探しておりましたところ、紀伊半島に何か胸が震えるものがありました。そして紀伊半島のどこにしようかと思っておりましたら、たまたまご縁がありまして熊野市に古い自動車の部品工場を改装させて頂いて天女座を作ったわけなんです。天女座のパンフレットに「おかえりなさい。魂のふるさとに。」と書かせていただいたんですが、初めて来た方も懐かしいとおっしゃってくださる場所なんですね。わたしも初めて熊野市を訪れたときに、「なんて懐かしいんだろう」ということを感じました。そして、海がとても綺麗だったんです。海に潜るのが好きなので、初めて熊野に来てから、３ヶ月で引っ越してしまいました。
なんせ人口が２３０人、電車が3時間に１本、コンビニまで１２キロといった感じで、今までの京都の生活とはまったく違う生活をすることになりました。地元の方に大変受け入れていただいて、地元のおじいちゃんおばあちゃんも天女座のカフェに来てくださるのですが、冬になると４時半に寝ると言うんですね。「朝の４時半に寝るんですか？」と聞くと「夜の４時半」だというんです。（笑）私たちと半日くらいずれているんですけれども、朝日とともに起きて夕日とともに寝て・・・本当にいい笑顔をしてくださっているので、こういうのは本当に幸せなんだなぁと。陸の孤島だとか世界一遠い

とか色んなことを言われているのですが、古きよき日本が残っている場所ではないかと思います。今、大都会の方がたくさん来られておりまして、みんな来たときと帰るときの笑顔が全然ちがうんですね。ほんとうに魂が癒されたという感じで帰っていかれるので、これからも色んな方に来ていただいて、熊野に来ていただいて熊野の元気を皆さんに持って帰っていただきたいなと思っています。ありがとうございました。

小山

ありがとうございました。矢吹さん、住まいは熊野市の波田須（はだす）ですね。波田須というのは、村の中を古道が通っておりまして、石畳もございまして、私もニ三度歩いたことがございます。高台で日当たりも良くて、海も見えていいところですね。

矢吹

海が１８０度見える場所にありますので、本当に気持ちがいいです。

小山

本当にいいところにお住まいで、私も住んでみたいと思ったこともあります。熊野というところは、山あり海ありでございまして、あまり高い山はないのですが、小島先生がお撮りになっている大峯のほうに行きますと高い山もたくさんあってなかなかハードです。

今回の世界遺産の登録に関しましては、「吉野・高野・熊野」という 3 つの霊場とそれを結ぶ参詣道が推薦されているわけでございまして、なかでも 3 つの霊場を結ぶ参詣道の「道」＝「古道」が特色を成しているわけでございます。ご承知の通り、「道」の世界遺産というのは、スペインのサンチャゴ巡礼へ行く道が唯一でありまして、これが登録されますと世界で２番目の道だといういことになります。

みなさん、道との関わりについてお話いただきましょうか。

西嶋先生はあまり道とは関係ございませんか？

西嶋

いいえ。私も初めは関係ないかなぁと思ったのですが、実は「吉野熊野物語」という道の駅で三県合同で売り出すお弁当の献立作成に関わりました。奈良・三重・和歌山の特産品を使ってお料理を創作していくということだったんです。

私は初めそのお話をうかがったときに、「今度こそ華やかなお弁当を作ってみたい」と直感的にそう思ったんです。というのは、「なれ寿司・さんま寿司・めはり寿司・茶粥・柿の葉寿司」は非常に地味な存在なんです。駅弁フェアとかに出されましても、最後まで売れ残っているようなそんな古びた「わび・さび」の世界の存在で、華やかさというのに欠けるんです。

それで最終的にお弁当が出来上がったときに、もう一度見てみたら華やかではなくて、

やはりさんま寿司やなれ寿司やめはり寿司に沿うようなお弁当の形しかできなかったんです。これは・・・と思って、もう一度吉野路、中辺路、伊勢路も歩き、高野山へも行き、もう一度中辺路を通って熊野路を歩いたんです。そうすると、こちらのパンフレットにも書かせていただいているのですが、やっぱり似合うのは抑えられた様な「美」なんですね。ぱ～っとはなやかな華々しいというのは何か浮いているような。さきほどもスクリーンで出てきていましたが、やはり「深い森」のような「深さ」に合わせてイメージが地味なものになってしまうのです。「やはりここにもどってしまったか。」とがっくりしたんですが、「それでいいじゃないか。」と熊野の神様の声が聞こえました。それで思い切って、そこで踏み切って出してみましたが、おかげさまで意外やとても人気がありまして、そのイベントでは最初１０００個という目標が２０００個売れたような状況でした。ですからそこに「深さ」、道を歩くときの「思い」、それを地元の人も受け取っているだろうし、そして色々な事をかかえて信仰の道に入った人もいたんだと思います。そのイメージというかその思いが「道」にはまだ残っているような気がします。

浜

「抑えられた美」というお話でしたが、それは具体的にはどういう形のお弁当なんですか？

西嶋

たとえば、ご飯の中にはめはり寿司が入っておりますし、幕の内の白いご飯も入れたんですね。今、古代米というのが熊野各地で栽培されておりまして、黒米を使ったんです。それで、めはり寿司と黒米が入るだけで暗い感じがするんですね。決して華やかではないんです。私ははじめ、華やかなイメージとして、赤くシソでつけた梅干をごはんに混ぜてみてピンク色にしてやってみたりしたんですけれども、どうしても皆さんの意見が最終的にはこちらのほうがいいということになってしまいました。
それから、お料理のほうは十津川のせせらぎの中で育てられたアマゴの甘露煮が入りました。これは、奈良県の代表としていれました。
それから和歌山県は、マグロということで照り焼きなのですが少し風味の違うものを入れています。
それから東紀州地鶏ですね。そういったものを中心にあとゴマ豆腐やデザートにミカンのゼリーなどが入りまして、非常に面白いものになりました。あとサンマを使ったなますですね。
それから海が近いものですから、沿岸はヒジキがとれるんですね。地元産のヒジキを使ってひじきの煮物とか、ごくありふれたものを。でも、今お弁当というと、ごちそうなんですね。茶色の世界といわれてまして、油をいっさい使わないという形で、あくまで

も古典的なお料理ということでこだわって作られたものが、「抑えられた美」の語源だったんですね。（笑）

小山
ありがとうございました。
素朴なものほど美味しいという感じがしまして、さきほど小島先生もおっしゃっていましたが。いろんなお弁当を食べられたと思いますがいかがでしょうか？

小島
さきほどはですね、裏行場に行き着くまでにおにぎりを食べてしまいましたですが。
話は食のほうから逸脱するかもしれませんが、思いますに紀伊山地の霊場と参詣道というのは、余り知られてなくてマイノリティという感じがいたします。
私が思っている紀伊山地の霊場と参詣道は、自然遺産という形で、私の思いいれもございましてお話をしたいと思います。
すでに１９９３年１２月には、鹿児島県の屋久島、青森と秋田の県境にあります白神山地が、自然遺産として世界遺産に登録されております。この二つの地域と「紀伊山地の霊場と参詣道」を比較して見ますとかなり違ったところがあるんじゃないかと思います。
「紀伊山地の霊場と参詣道」を自然遺産として、世界に発信していく自慢のものは何があるんだろうかと私なりに考えてみました。
まずは屋久島の世界遺産登録の特徴ですが、宮ノ浦岳、標高２０００メートルの山、海抜ゼロからの水族の植物・生物の分布、これが一つの特徴として生態学上も面白いということで登録されています。それと屋久杉に代表されます樹齢数千年というスギ、それと独自の動物たち、ヤクシカとかあるいは植物ヤクシマヒャクナゲいうものが特徴となっています。もちろん優れた自然景観というの入っています。
それと一方で白神山地ですが、これは極東地域といいますか、東アジアでは有数のブナの原生林、その中にたくさんの動物たちがすんでいて、非常に動物の層も厚いです。その中で植物を見ますと、植生の変換していく過程も見ることができる。そういったことが特徴となって登録されています。
紀伊山地の霊場と参詣道をこの二つの遺産と比較して、どんな特徴をもつのか見てみますと、これは私なりの独断と偏見ですが、３つほどあると思います。
まずひとつは、世界遺産の対象が長大な道であるということ。さきほどサンチャゴへの巡礼道の話が出ていましたが、それよりもはるかに長い道です。
2 つめは、紀伊山地にしかない植物、景観があるということ。すばらしい景色ですね。浜さんの講演にもありましたけれども、大変美しい景観がそこにあります。
３つめですが、対象の中に有形無形の歴史的文化的遺産が含まれているということ。
この 3 つが紀伊山地の霊場と参詣道の大きな特徴ではないかと思っております。

そんな中で何が魅力なのかということになるのですが、長大な道ということを言いました。これは私が住んでおります奈良県の道だけ捉えても、大峯奥駈（おくがけ）道、これは吉野から熊野本宮まで全長１５０キロメートルあります。これは全部山岳地帯です。標高１２００メートルを超えます名のある山、弥山・八経ヶ岳や大普賢岳といった険しい山がたくさんあります。これを全部踏み越えていくわけです。名のある山だけで５０山あります。これを踏み越えていくのが奥駈（おくがけ）道なんです。
それからもうひとつは小辺路です。和歌山県の千手院橋、ここから本宮まで全長７２キロあります。これは昨年ガイドブックを作るときに歩いたのですが、大変険しい道です。およそ紀伊半島の北西の方向から東南の方向にバイヤス状に山並が続いております。そこを 3 つの谷と１０００メーターちかい3つの峠を越えてやっと本宮に着くという道です。
奈良県だけが、なぜこんな険しい道をかかえているのかわからないんですけれども。こういった険しい道が続いています。これの全長を合計しますと、２２０キロを超えております。これだけでもこの長さなのですから、さきほどお話のありました中辺路、大辺路、伊勢路を足しますとおそらく４００キロ超えるのではないかと思われます。その長さがひとつの特徴であることと、山岳地帯を行くということが、いわゆるスペインのサンチャゴの道とは少し違うということを言いたかったのであります。
2 つめに植物や景観に非常に特徴があるといいましたが、「ひと目千本」といわれる吉野の千本桜はおそらく日本にしかないと思いますし、日本の中でも吉野しかないというふうに思っております。
それ以外に玉置山から眺めますと、熊野三千峰と言われるくらい山並が続きます。これは果無（はてなし）山脈から奥高野にいたる山々まで全部見えるわけです。
植物では弥山・八経ヶ岳のトウヒの原生林、それと極めつけは大峯山脈にしか絶対ないという大山レンゲです。これは国の天然記念物にも指定されています。非常に美しい花です。別名、天女花ともいわれています。これらのことが大きな特徴ではないかと思います。
3 つめに有形無形の歴史的文化的遺産ということを申し上げました。これはどちらかというと、小山先生のご専門ですので、のちほどお伺いするのがいいんじゃないかと思います。

小山
ありがとうございました。
少しコメントしておきますと、世界遺産というのは、自然遺産と文化遺産と二分されるわけです。自然遺産は日本では、屋久島と白神山地、今度、知床ということでありますが、日本の場合は人の手が相当入っていますので自然そのものが残っているところは少ないというわけです。それに対しまして文化遺産というのは、人間が様々な働きかけを

して作ってきた記念物的なものが多いわけで、遺跡とかですね。そういったものの中で今回の熊野古道・参詣道は文化遺産に入るわけなのですが、文化的景観という範疇が文化遺産の中にはあります。文化的景観と申しますのは、純然たる自然というのではなく、むしろ人間が次々手を加えて自然を維持してきたというものです。
たとえば吉野の桜も人間が植えてきたものであります。もともと自然のものもあったはずなんですが、人間が育ててきた自然なのです。「道」もそういったものだということです。文化的景観というのが最近特に注目されえているということです。自然もあり、人間がそこへ働きかけてきた素晴らしい景観もあるんだというのが文化的景観だとご理解いただきたいことです。
矢吹さん、「道」についてお話いただけませんか？

矢吹
私と「道」とのかかわりといいますと、「道」それぞれに音楽を作るということになるかと思います。
今、熊野の曲を作っておりますし、伊勢で演奏するための伊勢の曲とか、新宮節をアレンジしてみたりとか、奈良とのかかわりになると大和姫の歌を作ったりしています。
これから全国に向けて演奏活動をしながら、吉野熊野の音楽を披露し、音楽だけではなくて、さきほどのように映像を出しながら、より具体的に、皆さんに魅力を知っていただけるような役目が出来たらなと思っております。
熊野古道といっても、歩いたことのない人にとってはどういったものかなというものですが、実際に映像を見ていただきましたら、すごくわかりやすいので、これからもどしどしＰＲしながら、先ほど浜さんのおっしゃったように、あまり手を加えすぎて変えないで今の状態をキープし、便利にしすぎてしまわないで、素朴な魅力、素朴なよさを伝えていきたいと思っています。

小山
ありがとうございました。
私は、どちらかというと「道」にはまってしまっているほうでございまして、今日も皆さんのお手元に「日本の源郷吉野熊野を歩くルートマップ・アクセスガイド 50 コース掲載」とこういったものがありますか？
私もこういったものは初めて拝見します。多分最近お作りになったものなので、ご利用いただきたいと思います。
これを見ていただきますとわかりますように、先ほど小島先生がおっしゃったような千数百メートルといったような本格的な登山でないと行けないような大峯というところもありますし、ちょっとだけ１時間程度歩いてみたいというそんなコースもあるわけです。非常に多様なコースがあります。

これはだいたい１日で行けるようなコースが主になっていると思いますが、体力と興味に応じて、種々様々な道がある。それを合わせて参詣道といっているわけであります。これを少しご研究なさったり、地元に問い合わせていただくと色々教えてくれることがあると思います。こんなに色んな道があるだということです。
私も最初は中世のメインルートであります中辺路、現代では滝尻から本宮まで歩く道ですが、これはちょっと初級とはいえませんが中級くらいの道から入りました。誰でもそうだと思いますが中世のメインルートを行くと、次は自然にあちこち行ってみたくなるということですね。そして比較されるとずいぶん面白さが違ってきます。
本格的な登山をしたい方は大峯へ、小辺路もかなりきついですね。中池のあたりでも金剛峯寺とかもきついほうです。中にも小一時間で歩けるような短い道もございます。そういったものも順番に味わっていただくと大変よろしいかと思います。
私もいろんな人を連れて歩きます。昔は歩くのが早いほうだったのですが、最近、学生諸君などと行くと置いてきぼりをくらいまして、「先行って待っとれ。」てなことになります。（笑）それでも私はほとんど全部歩いております。何度も歩いた道もあります。約２５年前から歩いてきたことになります。それで未だにしょっちゅう行っているわけであります。他の歴史の道も私も行ったことがあります。しかし、やっぱり熊野に戻ってくる。やっぱり熊野が最高だと。残っている距離も長いということもありますし、やはり歴史的な体験ができるということもあります。
私の本職が歴史ですので、昔の参詣記だとか、江戸時代の道中記といったものを読んで歩くと、昔の人たちの旅のしかた、そういった歴史的な追体験もできるのです。そういう道であるのです。そういう点からいうと、日本的にも世界的にもめずらしい道だし、立派な古道が残っているということになります。
歴史的文化的なことのお話を付け加えると、三霊場と参詣道の「吉野・高野山・熊野」ですが、これは面白いんですね。高野山ですが、山号で呼ぶと高野山ですが、ここは昔、高野（たかの）と呼ばれていた場所です。みんな「野」が付くわけです。野原でもないのになぜ「野」がつくの？ということになります。私はこれを疑問に思ったことがあります。広い平地がなく、山ばかりのところがなぜ「野」か？と。これはなかなかの問題であります。それで考えた結果、「野」というのは未開地ではないかというふうに考えるようになったのであります。それは理由があるんです。奈良時代の荘園絵図を見ておりますと、開発されたところは「田」や「墾田」なのですが、開発されていないところは「野」と書いてあります。そこから来るのではないかと考えたわけです。これは、また他の解釈があるかもしれませんが、皆さん考えてみてください。
野原でもないのに「野」がつくところに、霊場ができたのです。
貴族などの関心からいうと「吉野」が、都のあるところから近いというところで最初です。続いて高野山で、次に熊野、とだんだん遠くに行ってしまうということです。これは、浄土思想が関係があって、浄土というのは人間がちょっとやそっとではいけな

い極楽世界であると考えられていて、行けるようになると極楽でなくなるわけです。都から遠くの極楽に行けるように、どんどん南の果てに霊場がつくられていったのですが、あんまり辺鄙（へんぴ）だと貴族は行けません。しかし、昔はそうとう辺鄙だったと思いますね。また、那智から船にのってさらに補陀落（ふだらく）観音浄土を目指した人もいたくらいです。そういうわけで、どんどん見果てぬ浄土を目指して南に行ったのではないかというのが私の説明なんです。
熊野に３４回も行った後白河上皇は、なぜ何度も熊野に行ったのかということですが、行けば行くほど、回数を重ねるほどご利益があるという山伏の思想です。今でも大峯山に登りますと、百何十回登ったという標柱を建てている人がいたりしますが、何度も何度も登るとパワーがつくという考え方です。昔の人もかなりの苦行をして行ったわけです。
今は昔に比べるとずいぶん楽なのですが、ぜひ苦行をして行って頂きたいと思います。ただ夏場は暑くてあまりおすすめしません。むしろ秋冬、春先といった頃のほうが楽しめると思います。ただし、大峯は少し別ですが。大峯は千数百メートルありますので、夏場のほうがおすすめです。せいぜい今ごろまででしょうか。
そのように色んな関心に応じて行く事ができるということと、また昔の人は熊野が一番ご利益のあるところだと信じてそこに到達していったということでございます。そこに、色んな文化財をもつ寺社が次々作られていったということです。
来年の６月くらいに、日本では１２番目に世界遺産になる可能性が高まっておりますが、世界遺産になったらどうするか。世界遺産としてどう後世に残していくか。世界遺産になるメリットはあるのか。そういったことを含めて、順番にお話を頂戴したいと思います。
それでは、西嶋先生のほうからお願いします。

西嶋
今日の基調講演の浜さんのお話にもありましたように、世界遺産に登録された後、住んでいる私たちの責任も大きいと思いますし、おいでになる方の世界遺産に対する畏敬の念、そういったものもとても大切になるかと思います。
現在、私たちの地域といいますのは、過疎の問題が非常に深刻です。その中でも新宮市はまだ人口３万人くらいなんですが、徐々に人口が減ってきております。その中で多くの方が生活の不安というものも抱えているのですが、逆に地元の方は生活に対して問題をさほど深刻には考えてられないんですね。
それはなぜかといいますと、自然の恵みというものがありまして、たとえば串本町大島ですが、島なんですが、そこでは漁師ができる。多少の田畑を耕す事ができる。そして山が近いので、山ミツバチを飼って純粋のハチミツをつくることができる。それを多少の収入源として、その日を暮らしているという方が結構いらっしゃるわけです。

山間部へ行きましても、あまり人が訪れないようなところに都会からの入植者がどんどん増えているというような現実があります。
ですから、私は過疎というのは大きなテーマだと思い、２０年くらい取り組んできて、地域の料理とかでＰＲできないかとか、色々な人が呼べないかとか、いろんなことで協力させていただいたのですが、すごく困難を極めるような問題です。
けれども地元の人たちは意外と明るくて、以前よりもどんどん地場産のものが増えていっています。私が熊野薬膳をやった２０年前は、なかなか地元の野菜が手に入らなかったために、わざわざ野山に行って農薬のかかっていない昔からあるような民間伝承の自生しているものをお料理に使うとかしてきました。面白いのは、今咲くアザミがあるんですが、吉野アザミという名前も美しいのですが、その根には利尿作用があります。ゴボウのような感じなんですが、それをすりおろしてお豆腐とまぜ、蒲焼豆腐という昔からある精進料理のメニューの一種を創作してみたりしました。
現在、新宮あるいは熊野地域を訪れた方たちが、過疎ゆえに、遠いなぁと感じられることもあるかと思うのですが、逆に環境や手がつけられていない自然だとか、きれいな川のせせらぎを見ますとやはり心がいやされます。
ビルの谷間の中の孤独というのは非常に冷たい感じがするんです。そして、寂しさも感じるんです。でも自然の中にいると・・・。私は、新宮のタカタというところによく採集に行くのですが、人っ子ひとり通らないで、学校もあるけれども人間の声など聞こえないんです。ですけれども寂しくはなくて、なにか暖かいものにつつまれているような気がするんですね。
ですから、急速に多くの観光客がみえて、色んな事が変わっていくのではなくて、できるだけ１００年２００年このままの状態で次世代に譲り渡していきたいと思います。そこのところを住んでいる人間もしっかりしなければいけないし、訪れる方々も長い間培われてきた遺産というものに対して畏敬の念というものを持って、お互いにやっていかなければいけないのかなと考えております。

小山
はい、ありがとうございました。
続きまして、小島先生よろしくおねがいします。

小島
私のほうは、超現実的です。実は今お話もありましたように、世界遺産となりますと現状維持ということが非常に重要だと思います。
しかし、実際にはたとえば奈良県が抱えている大峯山脈だとか小辺路のようなところの「道の補修、点検」そういったことを果たしてやっていけるのかどうかとなると、現状では非常に難しいのではないかと思います。

これはやっぱり村おこしとかをやっていかないといけないのじゃないかと思います。林業の衰退など色んな問題をかかえています。そんな中で若者がいない。たとえば卑近な例でいいますと、もしもどこかで事故でも起こったら、救助隊を派遣しなければいけない。そんな事になってもみんな高齢化している。若い消防隊員が不足していて、８０歳近い隊長が指揮をとっている。そんな状況が現実にあるわけです。
こんな問題は早いうちに解決したいという気持ちがあります。じゃ「どこまでやれるの？」と言われたらはっきりいって何もできないです。非常に残念な事にそういう現状です。しかしながら、世界遺産についてはみんなの力でやっていかなければならないのではないか。ひとりひとりがそういう意識をもつ必要があるのではないかと感じております。
微力ながら、私は写真というものを通じてなにかご協力はできないかと、来年６月の世界遺産の登録にあわせて、来年６月または７月前半にマルビルで「紀伊山地の霊場と参詣道」というタイトルずばりで写真展を開催しようと思っております。これは私が所属しております、フォトクラブ大峯という会がやります。
その後ひきつづき秋には、同じように奈良市が元そごう跡地のスーパーの美術館で９月に開催させていただくということがほぼ決定しております。そんなことをして微力ながらも宣伝効果をあげていきたいなぁと思っております。
地元で大変お世話になっていることもあり、是非ご協力させていただきたいということで、西嶋先生や矢吹さんのように現地に入ってやっていくというほどのことはできませんが、自分にできることをやらせていただきたいと思っております。

小山
ありがとうございました。
矢吹さんどうぞ。

矢吹
はじめて住んだときに、「星が綺麗ですね。」と地元の方に言いましたら、「星はいつでもあるよ。」と地元の人が言うんです。ですが、世界遺産になるということは、地元の方が自分の地域に誇りがもてるきっかけになるのではないかと思います。外から入って、「この地域は綺麗ですね。素晴らしいですね。」というと、「そういわれてみると、今日海がきれいだったよ。」といってくれます。やっぱり宝の中に住んでいると、気がつかないんですね。
ですから私たちのようにいつも「きれいですね。素晴らしいですね。」と言いつづけて、地元の人が誇りを持っていただけたらと思います。
天女座のはたす役割として、文化的なものを発信していきたいと思っています。コンサートだけではなく、写真展とか、今度岡村タカオさんというオペラ歌手を招くのですが、

オペラや能、地芝居といって地元の方を俳優さんにして除福劇というのをやります。そういった形でいろんな文化的なものを発信して自然とともに味わっていただけるようなお役目をしていきたいと思います。

小山

ありがとうございました。
去年、三県のフォーラムが各県で行われたのですが、奈良県のフォーラムで小島先生と私がご一緒しました。
そのときに岐阜県の白川村、合掌造りで世界遺産になっているところですが、その村長さんのお話をうかがいました。世界遺産になってどう変わったかというお話で印象的だったのが、その地域出身の若者が郷土に誇りを持つようになったということでした。そうしてUターンする人も結構出てきたということをおっしゃっておりました。ただし、土産物屋ばかりやる人が多くて、肝心の百姓をやる人は少なくなってということもおっしゃっていたのですが・・・。
吉野熊野地域というのは、現在は過疎地でありまして、交通も大変不便なところです。そういったところが生気をとりもどす。若者が戻ってこれる。そういう場所にしなくてはならない。私も観光地になってしまうことは大反対なんですが、年寄りばかりになってしまうのは衰えていくばかりですので、活気をとりもどすきっかけになってくれれば大変よいと思います。
それでは最後に浜さんにまとめとして総括的なお話をいただきたいと思います。

浜

西嶋さんから、熊野の食材がいかに豊かであるか。その中に「抑えられた美」・「深い森」のようなお弁当のお話がありました。
これは大事な事でありましてよく「地産地消」といわれますが、もう一度伝統食とは何かとか、地元で何がとれどう使われるかということの掘り起こしということは実は宝だと思います。ですから、熊野道を歩くときのお弁当に、豊かな食材というのはこれから大事な事だと思います。是非、いいお弁当、いい食をこれからも提供していただきたいと思います。
小島先生から、自然景観、植物といったお話をいろいろ承りましたが、自然景観というのは本当に難しいと思います。緑があるから、自然があるということにはなりませんし、人の手が加わって自然が守られるということは、実際大事なことですので、外の人間はこういったことを踏まえてお邪魔するということ大切だと思います。
矢吹さんからは、「懐かしい暮らし」というお話がございました。朝日とともに人が人間のリズムで暮らし、自然のサイクルで暮らす。私も箱根の山に住んでいますが、これは都会の人間の暮らしをもう一度見直すといったことも必要だと思います。

吉野熊野の古道というのは、冒頭でも申し上げたように「祈りの道」だと思います。これを申し上げたのは、お一人お一人の「祈りの道」になっていただきたい。そのためには色んな選択肢があると思います。どういう道を選択されても、５００メートルでも１０００メートルでも半日でも１日でも一ヶ月かかっても、歩くことから歴史的な追体験ができるような道、現実への浄土の道、これは私たちの癒しの場になるわけです。いにしえだけを追うのではなくて、現実を踏まえての浄土の道というのも大事な事だなと思いました。
それから、過疎の問題が出ましたが、これは吉野熊野だけの問題ではなくて、全国各地におきている問題でございます。特に日本のように８割が森林ということになりますと、この森林の現状はその１割が原生林です。それがどうなっているかというと、人の手が加わらないで、下草を刈らない・枝おとしができない。それだけの手間をかけてもお金にならないというようなことで、日本の国土の山々が悲鳴を上げている、そういう現状です。
そこで、林業の問題も過疎の問題も一番大事なことは、外の人間がではなくて、そこに住む人が、生き生きと誇りを持って暮らしていけるかどうかだということがとても大事だと思います。観光地化されて、ただ若者がもどってくるのではなくて、もう一度原点を見つめなおして、自分たちのふるさとに誇りをもてるかどうか。そういうような世界遺産であってほしいと思います。
さきほど、「旅人」というお話を申し上げましたが、「旅」というのは昔「賜る」（たまわる）という字を書いて「たぶる」と読んだのが語源だそうです。旅に出て人と出会い、自然の中に安らぎ、そして多くを賜るということ。吉野から熊野から賜るという気持ちを都会の人間は決して忘れてはいけないと思います。そして何よりも「旅」ということ、「賜る」ということは、人を元気に再生させる力を持っているということだと私は思います。それが私にとっての「旅」です。いつも再生できる。ただ道を歩くのではなく、元気をいただき、そして自分自身の生きがい・再生、それが「旅」だと思います。到達するのが目的ではないと思います。道のりもまた「旅」だと思います。そういう意味では、熊野古道を歩くということ自体が、私にとっては「旅」のあり方の原点だと思います。ですから、熊野古道に着くまでも楽しんで、ゆっくり味わう旅をしていただきたいなぁと思うのです。「旅」というのはその工程が大事だと。そのためには自分の足で歩くこと。それは一歩でもいいし、５００メートルでもいいと思います。ご自分の足で歩いていただきたい。先人がその道をたどったように、自分の足で歩いてみるということが大事だろうと思います。まず自然の中に身をゆだね、スローに自分の足元を見つめ直しましょう。
民俗学者の宮本ツネイチは「足元に文化あり。足元から文化は生まれる。」とおっしゃっております。
みなさん、スローに自分の足元を見て、自分を解放することを楽しんでみてはいかがで

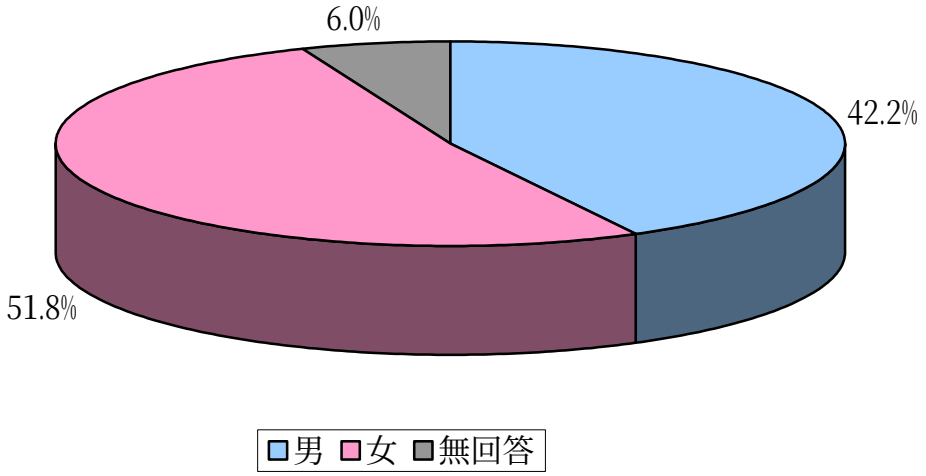
しょうか。なんともいえない幸せな気持ちにつつまれることはずだと思います。
団体バスでわっと乗りつけて、そのあたりをさっと歩いて、お土産を忙しく買って、またバスに乗り込んで帰るような観光地が、今日本全国にたくさんあります。
先ほど出ました白川郷の悩みもそこにあるわけです。白川郷には３０年通っております。私は古民家再生ということを４０年間やらせていただき、勉強しながら白川郷には何十年も通いました。世界遺産に登録された事により、そこに住む人たちではない人たちが入って、真ん中に駐車場を作ってしまう。わっと来て、わっと帰る。ですから、４時以降に白川郷へ行くと、静かな本来の白川郷に出会えるわけです。
そんなわけで、吉野熊野は風土も人も含めた土地が持つ空気こそが最大の魅力だと思います。ゆっくり呼吸して、肌で感ずる。足で大地を確かめるようにして歩く。そうした旅こそ熊野古道にはふさわしいのではないかと思います。訪れた人はその土地でまず慰められます。元気を回復し、再生に向かう事ができるのではないかと私は思います。ゆっくり、ゆっくり歩く。それを私は皆様にお勧めしたいと思います。
そんな世界遺産に登録される吉野熊野の魅力を十二分に訪れる私たちが認識した上で、村の方や地域に住まれている方が誇りに思えるように、また次世代に伝えていけるように。世界遺産に登録された今がスタートだと思います。そのことをわきまえて、私たちは本当に素晴らしい先人たちが残してくれた遺産を引き継いで、次世代に手渡していきたいと思います。私もまたお邪魔させていただきたいなとおもいます。

小山
どうもありがとうございました。
最後にとてもいいお話でまとめていただいて、私の下手な司会もこれで帳消しになったかと思います。（笑）
それでは、短時間ではありましたが、これでパネルディスカッションを終わらせていただきます。パネラーの方々どうもありがとうございました。また皆さん熱心に聞いていただきましてありがとうございました。

MC
どうもありがとうございました。
吉野熊野地域の魅力をテーマに、色々なお話をしていただきましたが、短い時間ではございましたがいかがでしたでしょうか。
是非、一度吉野熊野地域に足をお運びいただいて、素晴らしい自然、豊富な食材、歴史ある時間、そして風景と世界遺産への登録を目指す、吉野熊野地域を体験していただければと存じます。
ここで、本日ご出席いただきました皆様を改めてご紹介させていただきます。
まず、コーディネーターの小山靖憲先生。どうもありがとうございました。

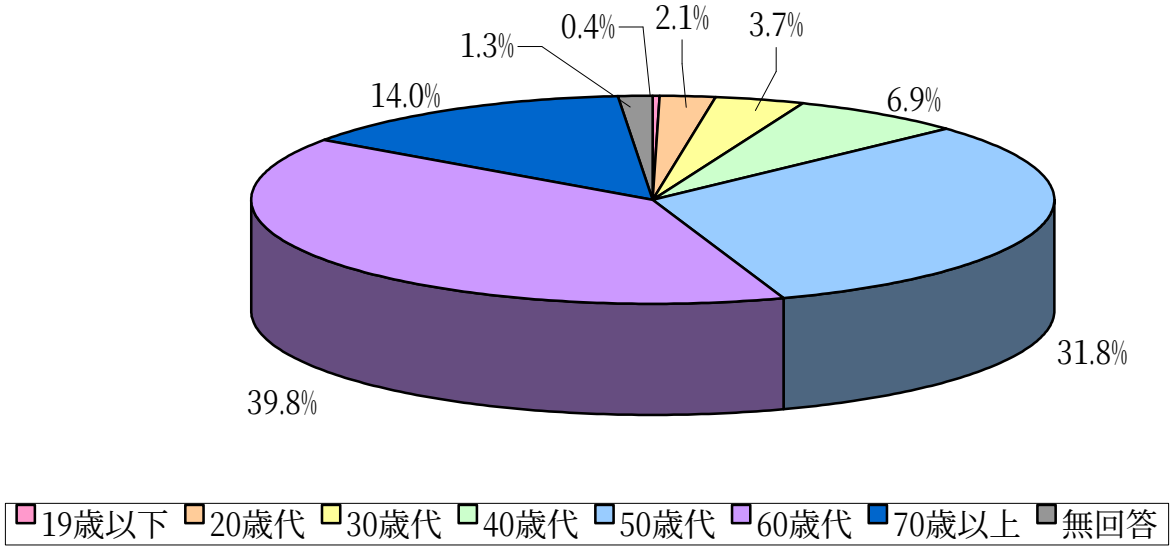
パネラーは、西嶋久美子先生、小島誠孝先生、矢吹紫帆さん、そして女優浜美枝さん以上の皆様でお送りいたしました。皆様どうもありがとうございました。

性別



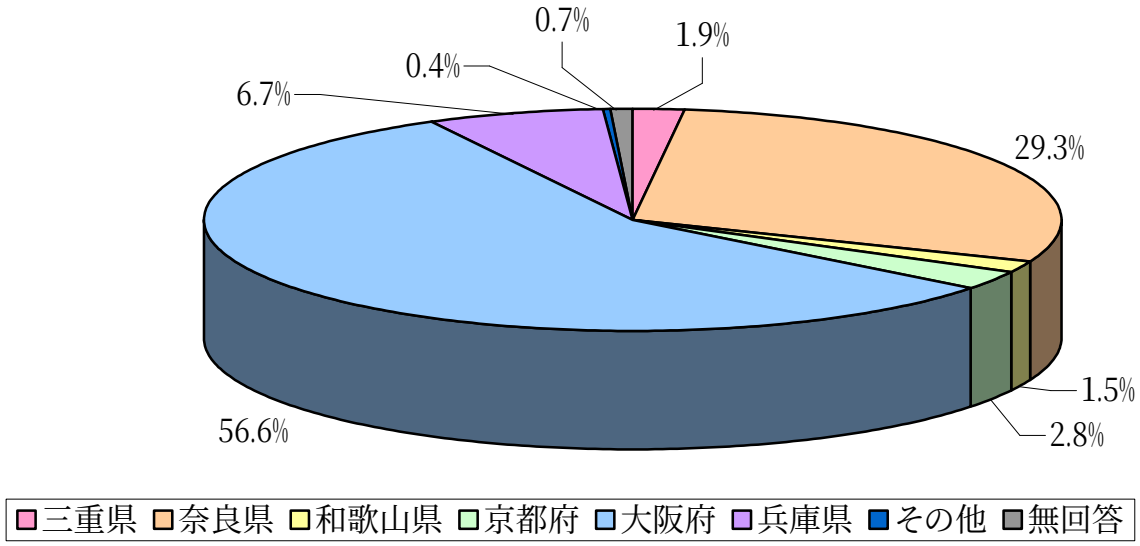
男	226
女	277
無回答	32

年齢



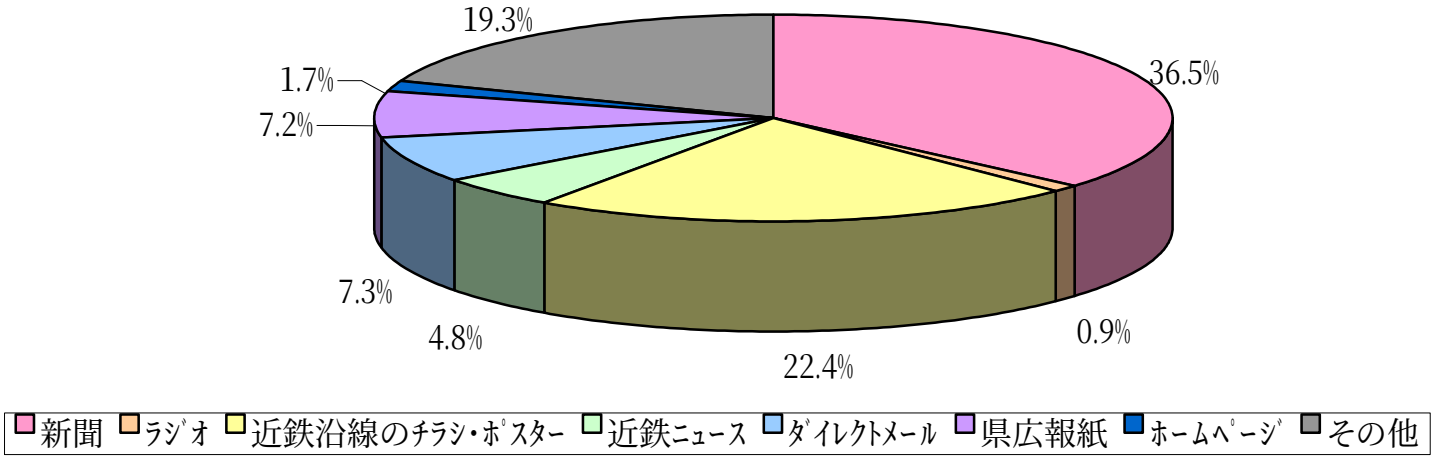
19歳以下	2
20歳代	11
30歳代	20
40歳代	37
50歳代	170
60歳代	213
70歳以上	75
無回答	7

住所



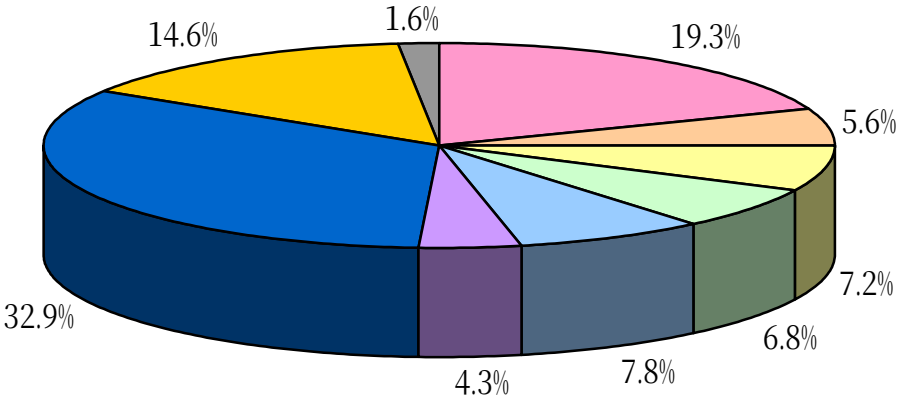
三重県	10
奈良県	157
和歌山県	8
京都府	15
大阪府	303
兵庫県	36
その他	2
無回答	4

このﾌｫｰﾗﾑを知ったきっかけはなんですか？



新聞	199
ﾗｼﾞｵ	5
近鉄沿線のﾁﾗｼ･ﾎﾟｽﾀｰ	122
近鉄ﾆｭｰｽ	26
ﾀﾞｲﾚｸﾄﾒｰﾙ	40
県広報紙	39
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ	9
その他	105

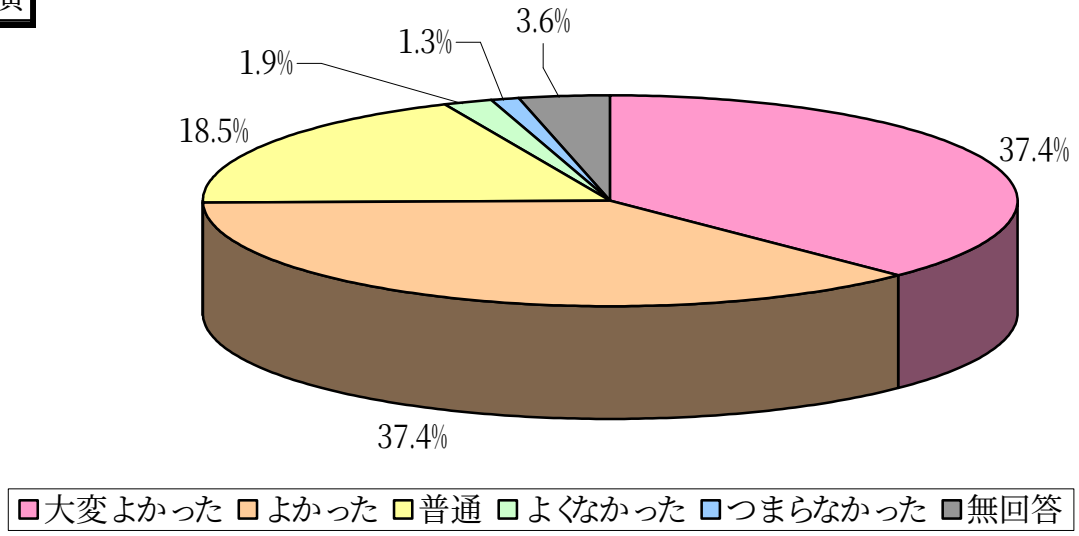
このﾌｫｰﾗﾑに参加された理由をお答え下さい



浜美枝の講演	236
ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ	69
矢吹紫帆のﾗｲﾌﾞ	88
同行者に誘われたから	83
お土産があるから	95
お楽しみ抽選会があるから	52
吉野熊野地域に興味があるから	402
世界遺産登録に関心があるから	178
その他	20

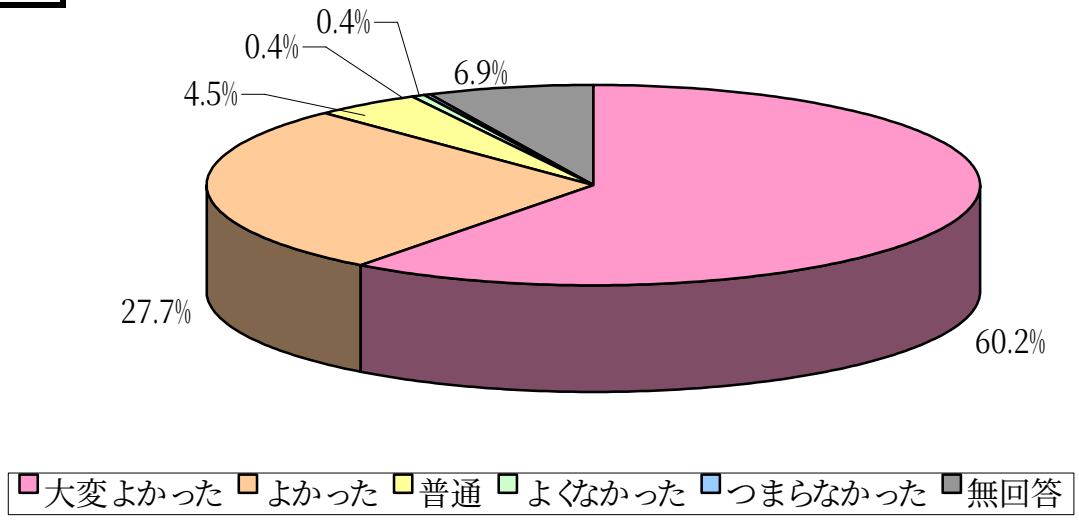
■浜美枝の講演　■ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ　■矢吹紫帆のﾗｲﾌﾞ
■同行者に誘われたから　■お土産があるから　■お楽しみ抽選会があるから
■吉野熊野地域に興味があるから　■世界遺産登録に関心があるから　■その他

浜美枝の講演



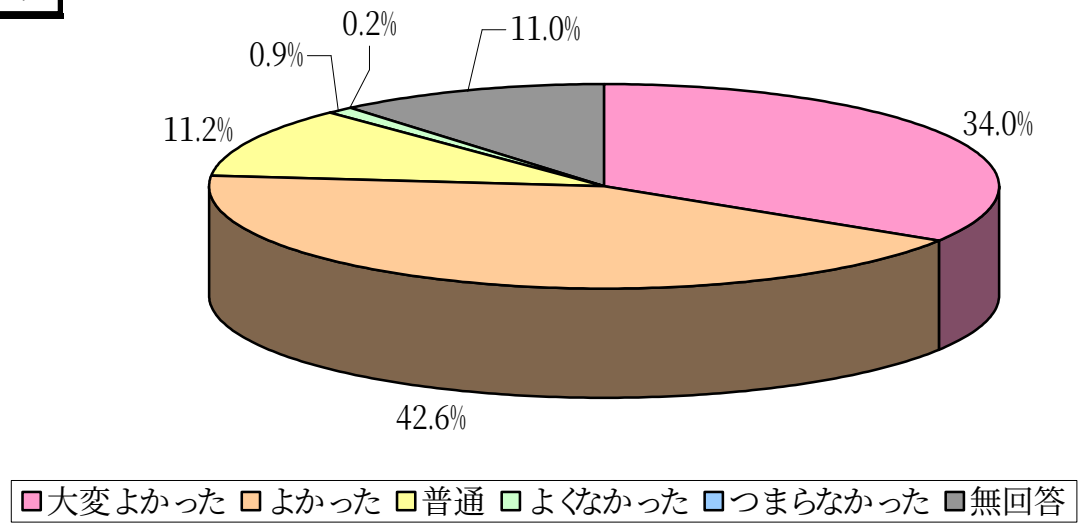
大変よかった	200
よかった	200
普通	99
よくなかった	10
つまらなかった	7
無回答	19

矢吹紫帆のﾗｲﾌﾞ



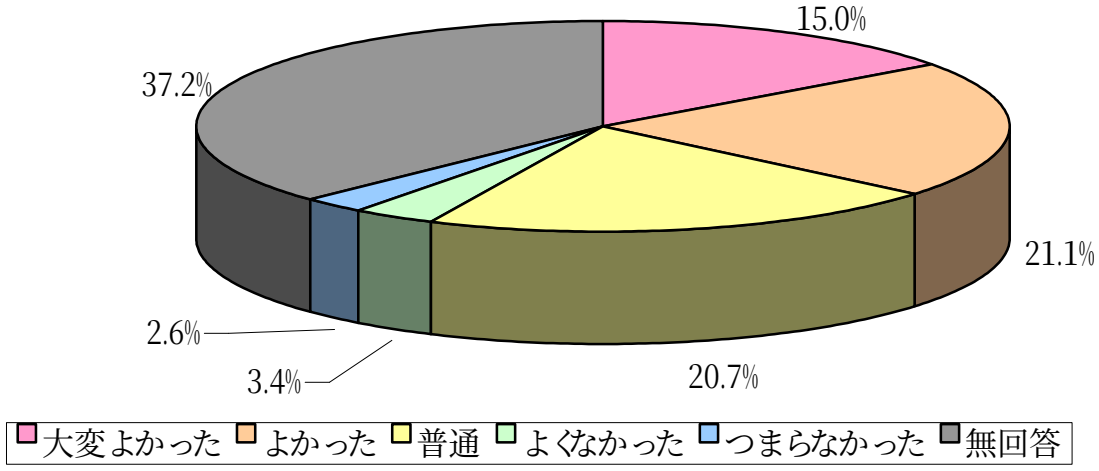
大変よかった	322
よかった	148
普通	24
よくなかった	2
つまらなかった	2
無回答	37

ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ



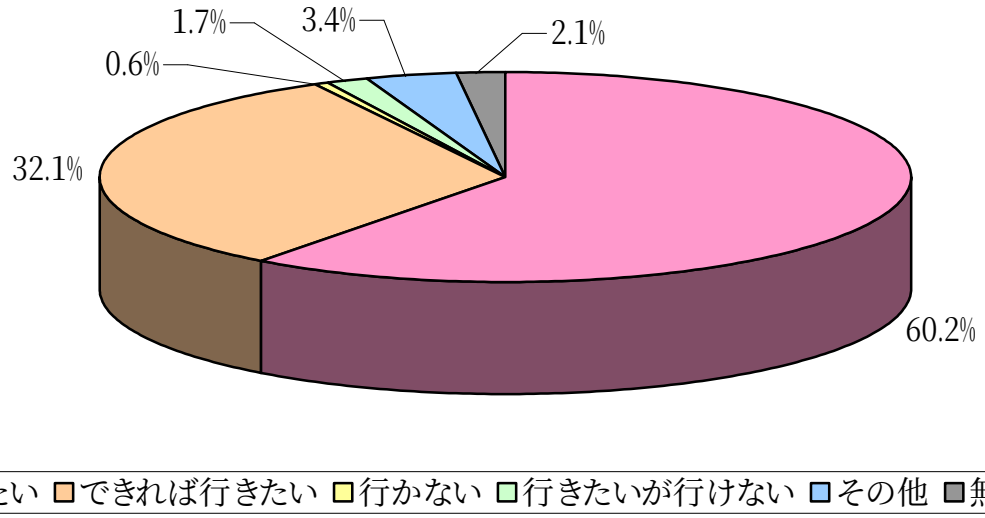
大変よかった	182
よかった	228
普通	60
よくなかった	5
つまらなかった	1
無回答	59

お楽しみ抽選会



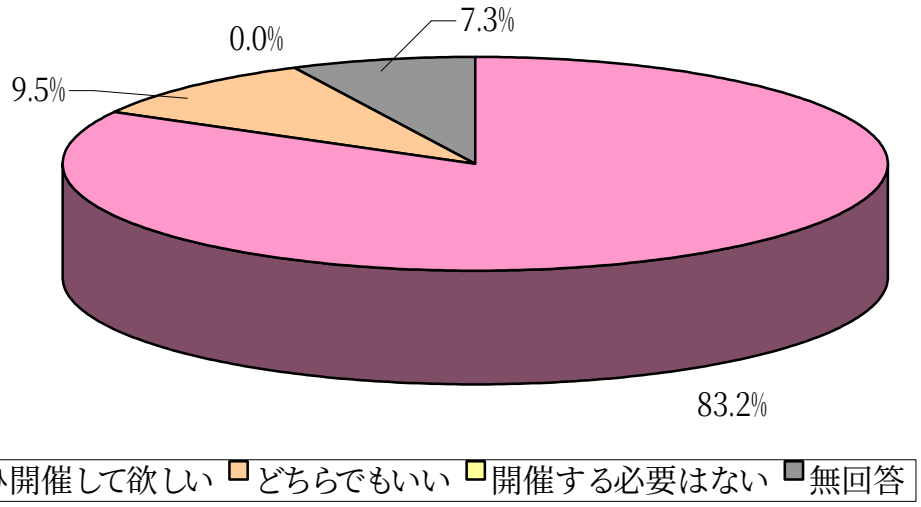
大変よかった	80
よかった	113
普通	111
よくなかった	18
つまらなかった	14
無回答	199

紀伊山地の霊場と参詣道が世界遺産に登録されたら、吉野熊野地域に行ってみたいですか？



ぜひ行きたい	322
できれば行きたい	172
行かない	3
行きたいが行けない	9
その他	18

このようなﾌｫｰﾗﾑをまた開催して欲しいですか？



ぜひ開催して欲しい	445
どちらでもいい	51
開催する必要はない	0
無回答	39

Ⅱ　情報ＰＲ展

開催概要

日　時　　平成１５年１０月２４日（金）～２６日（日）
　　１０時～１９時（２６日は１７時まで）

場　所　　近鉄上本町駅１Ｆコンコース「スペイン広場」

内　容　　吉野熊野の魅力ＰＲコーナー
・吉野熊野フォトコンテスト入選作品展示
・写真パネルの展示
・世界遺産関係及び県・市町村観光パンフレット、マップの配布
・ＶＴＲによる世界遺産関係に関する情報を提供

集客数　　約８，０００人（3 日間）

Ⅲ　吉野熊野フォトコンテスト

開催概要

テーマ　　「吉野熊野の魅力」を伝える作品または「紀伊山地の霊場と参詣道」

部門　　通常写真部門とデジタル写真部門の 2 部門

応募期間　　平成１５年 8 月１１日（月）～９月 19 日（金）

副賞　　最優秀賞　1 点　　吉野熊野地域の旅ペアご招待
　　優秀賞　　４点　　吉野熊野地域の旅館、ホテルペア宿泊券
　　特別賞　１４点　　地域の各種特産品セット

応募者数　　７３人
（県別内訳）三重県　１４人　　奈良県　２４人　和歌山県　27 人　その他　８人

応募点数　　３０７点
（撮影場所別内訳）三重県　７４点　　奈良県　９０点　　和歌山県　１４３点

Ⅳ　まとめ

「吉野熊野の魅力」地域連携ＰＲ事業は、京阪神の人をターゲットに近鉄上本町駅コンコースや近鉄劇場において、吉野熊野の魅力を体験していただく催しでありました。

定員９５４名のフォーラムには、幅広い層から１，１９１名の参加申込があり、吉野熊野地域の魅力に多くの方々が興味を示され、参加者の８０％以上から「また開催して欲しい」という回答をいただきました。また、3 日間にわたり開催しました上本町駅コンコースでの情報ＰＲ展には、８，０００人を超える方が立ち寄られ、吉野熊野地域へのアクセス方法や「紀伊山地の霊場と参詣道」に関するたくさんの質問や意見が寄せれ、多くの方に吉野熊野地域の魅力を紹介、情報発信することができ大きな成果を得ることができました。

今後、当事業の成果やアンケート結果をもとに関西圏にとまらず、三重、奈良、和歌山の３県が連携して吉野熊野地域の魅力を全国に対し情報発信を行い集客交流の促進に努めていきます。また、吉野熊野地域内でもフォトコンテスト入賞作品等を活用し「吉野熊野の魅力」のＰＲを行っていきます。